

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470103104		
法人名	株式会社 けやき		
事業所名	グループホーム けやき (南ユニット)		
所在地	大分市大字横尾3607番地の1		
自己評価作成日	平成25年11月10日	評価結果市町村受理日	平成26年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&ligosyoCd=4470103104-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 吉番館 1F		
訪問調査日	平成25年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2つのユニットが同じ空間の中でつながっており、木の香りのする整った環境の中で過ごすことができる。また、利用者にとってゆったりとした時間が提供できるように、スタッフも周囲に配慮した動きができるようにシフトや業務内容の見直しをしつつ、研修もしながら運営してきた。そのことが、利用者の方の精神面の安定につながっていると考えている。3年前より、「利用者本位」「チームケア」を念頭に置いたケアの実現のために取り組んでいるところである。今後の課題としてはコミュニケーション力の向上を図り、さらにチームとしてのケアがより質の高いものにつながっていくようにしたいと考えている。加えて、3度の食事においては味やメニュー、栄養バランスを考えた食事の提供を施設開設以来続けており、ご利用者の心身ともの健康につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市郊外の住宅街に位置する木造平屋造り2ユニットの施設で、両ユニットが居間を介して繋がっていることも特徴と言えます。「自分自身が入りたい施設を目指す」とする理念の基本概念は、一人ひとりの利用者や家族の意向、状況の把握と個々の尊重に基づく支援であり、施設の理念であると共に、本質は個人を対象に考慮されています。家族との相互理解を深める営みとして、情報の共有の徹底に取り組んでおり、郵送による近況報告紙や電話での緊急報告が図られる中で、信頼関係の絆づくりが行われています。環境面の配慮への取り組みとして、利用者の支援全般に関する整備は基より、職員の働きやすさにも視点を広げた施設運営が実践されており、全職員の精神面への配慮が「チームづくり」に反映されている様子が伺えます。また、食事の大切さに着目しており、食事時間や献立の工夫、食べ易さなどを考慮し、体調の管理・楽しみ(彩・香・美味しさのこだわり)支援の一環として捉えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分自身が入りたい施設を目指すという理念を朝礼・ユニット会議等で意識づけし、実践につなげている。	理念を通して個々の職員の考える力を培っており、担当者による朝のスピーチが行われています。個々の職員の自覚を基盤とし、利用者一人ひとりの個性を大切に、生活の質の向上に繋がる支援に向け、全職員で取り組んでいます。	「地域で暮らし続ける支援」の普及・推進も地域密着型サービスの特質の一つであり、実践の状況は確認できています。一層の展開を視野に、理念への表明を期待すると共に、全職員間の協議を希望します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の地域のクリーン推進活動に可能な範囲で入居者とともに参加し地域貢献活動をしている。明治小学校の児童との交流会を年に10回程度の交流をしている。	自治会にも加入しており、地域間の相互の関係づくりに前進的に取り組む姿勢が伺えます。小学2年生の課題授業(春の施設見学・秋の懇話会)は、通年の恒例行事として定着しており、相互の交流関係並びに、地域発信へと繋がっています。	情報の提供や介護の知識の発信を通じた相互の関係づくりも視野に入れた施設づくりを目指しています。地域のニーズの把握に努めながら、地域の中で暮らす施設として、一層の取り組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出かける姿を通して実際の認知症ケアの姿を見せる意識をもつようにしている。中学生の職場体験等を積極的に受けるようにしている。また、運営推進会議を通じて認知症ケアの実際についての情報等を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、消防団、民生委員、家族の代表の方などに参加して頂き、情報交換・意見交換を実施している。頂いた意見を施設運営、サービス向上に反映させている。	地域で暮らす施設の在り方や取り組みについての展望が伺えます。運営推進会議参加者との協力体制づくりに努める中で、相互の意見交換を介し、施設の支援向上に取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡や担当部署への訪問、市職員からの訪問を通じて連携を図っている。	運営推進会議への参加、市への訪問、電話連絡を通して、情報の共有が図られており、行政的な相談も行われるなど、相互間の交流が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠については、離園事故等の経験から現在も継続させていただいている。通用品については開錠して見守り強化を実施。できる限り、行動制限をしないケアの実践を心がけている。一部家族の了解のもとセンサーマットを使用している。	内部研修では「心の傷」に繋がる行為や、支援の在り方について全職員の理解を深めています。運営規定「虐待防止に関する事項」の改正に前進的に取り組んでいます。家族と連携(意向確認)に基づき、安心・安全な支援に繋がっています。	利用者や家族に寄り添う支援の基礎として、チームワークと気づきの大切さを理解しています。介護支援全般の向上に向け、年間研修計画(拘束・接遇・感染・災害など)の策定に、一層の期待が持たれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体が、虐待を行わないケアの実践を心がけている。利用者本位のケアをケアプランにいれ、敬意をもった優しい声かけやコミュニケーションを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ、実践リーダーが研修に赴き、権利擁護についての意識を高めるようにしている。参考資料は、職員が閲覧できるように工夫している。時に家族への情報提供を図って、成年後見制度の利用につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は、相談室で十分な時間をかけて契約内容などの説明を行い、納得了解のうえ、同意をいただいている。また年に一回の家族会を利用して家族の不安等の相談に乗っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置。家族とのコミュニケーションのひとつとしている。苦情相談の対応窓口をつくり機敏な対応をこころがけるようにしている。また、ケアプランにも利用者や家族の思いが反映されるような工夫を目指している。	家族会等を通して施設の取り組みの現状や、今後の展望などの発信に努めており「看取りについての説明・意向調査」なども行われています。個々の利用者の思いや希望・家族の意見や要望を尊重した支援の実践に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見が言える環境づくりを目指している。必要な場合は、臨時の事務会議や全体会議等を開催して、意見反映のための工夫を行っている。	「理念」を基盤とする支援に向け、全職員が一丸となり取り組む姿勢が伺えます。自己評価や個人面談、福利厚生を活用して施設の向上と、職員間の関係づくり(ユニット間相互の協調的な体制)が築かれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表の活用によって自分の振り返りができるようにしている。また、リーダーと個別面談をもって将来の希望や目指すものについて意見交換をしたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修を促しており、認知症の研修等職員には積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交換実習をして施設の違いからけやきの伸ばしていきたいところや、自己課題を明確にして仕事に取り組んでもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居の段階においては、特にスタッフと情報共有ができるように利用者情報を朝の申し送り時に全スタッフに申し送ったり、本人とのコミュニケーションを大切にして、職員が感じたことを意見として集めるようにしてケアにつなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントシートや基本情報等の聴き取りをしながら家族の気持ちに寄り添いながら、信頼関係の構築を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の際には、家族と現在の当面のニーズについてしっかりと話し合い決定していく。1ヶ月程度の目標設定と短めにする事で施設入居によって起こる様々な変化に柔軟に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に同じ空間で過ごし、その方の精神状態によっては居室での1対1の関係でのケアを心がけたりしつつ、暮らしの中での信頼関係づくりを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や家族通信によって日々の生活をお知らせし、職員が立ち入れる範囲で家族と本人の絆を大切にできるように努め、信頼関係が築けるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の品物を持ち込んでいただいたり、面会などの柔軟な受け入れや、家族への連絡などで自宅訪問や外出をすすめている。時には、家族の宿泊の希望に沿えるようにしている。	職員の気づき、個々の利用者の思いに寄り添う支援の大切さを、共通の意識として周知しています。家族を中心に、馴染みの関係(親戚など)の把握・継続に努めるなど、一人ひとりの意向を尊重した援助に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や相性を感じ取りながら、ストレスの少ない席の配置をしたり、仲間で歌やおしゃべりを演出したりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等の経過があったとしても、現状の把握やご家族との連絡をとってその後の支援に役立てる情報の提供にも尽力できるように意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアを通して、一人一人の思いを大切にできる個別ケアを目指し、可能な限り対応する努力をしている。スタッフの意見や気づきを共有できるようにご本人の発言などを日誌につけるようにしている。	個々の利用者の思いへの気づき(表情・しぐさ)、家族とのコミュニケーション・伝達の徹底に取り組んでおり、信頼関係に基づいた、施設・職員との相互理解を深めています。利用者の意向の把握と支援において、職員間の共有が図られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報は、ご本人、ご家族との会話の中で汲み取り、基本情報の中に記載して職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、記録、連絡ノート等を活用して、入居者の状態を把握する。報告・連絡・相談の徹底で情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と介護支援専門員と一緒に介護計画からモニタリングまで行っている。また、本人、家族の意向を大切に、介護計画を立てるようにしている。モニタリングはユニット会議で実施するようにしている。	一人ひとりの日々の現況は、職員間の連絡ノートにより共有が図られる中で、ユニット会議での協議や支援経過を活用したモニタリングに取り組んでいます。利用者や家族の意向が反映された計画の策定に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録を作成して日々記入している。気づきや工夫について職員が自由に記入している。また情報を共有できる連絡ノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別介護計画をたて、ご本人やご家族の希望に沿ったケアに取り組むようにしている。また、ご本人の希望が実現できるように買い物・散歩・ドライブの実践も臨機応変に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアへの参加(クリーン推進)や民生委員や教育機関とも連携しながら支援のかたちを模索している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を優先しながら入居時に話し合いのうえ主治医を決定している。またいくつかの往診医療機関と連携して希望に添える選択ができるようにしている。	利用者及び家族の意向を尊重したかかりつけ医となっています。往診や健康相談等で医療機関との協力関係が構築されており、利用者の状態に変化があれば、受診時職員が同行し情報を提供しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中でとらえた情報や気づきはその都度報告し、指示を受けている。急変の対応も見逃さないように注意を払っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、看護師が必ず同席し、病院関係者とご家族との連携等に努めている。また、入院後も必要時に訪問し情報交換に努めている。その他生活歴等の情報は必要に応じて介護支援専門員が情報提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に対しては、主治医とともにできること、できないことを話し合い、ご家族の了解のもと終末期に向けたチーム支援を行なっている。また、医療連携に関する説明書を作り、ご家族に説明している。	契約時に、「ターミナルケア依頼、受諾書」を交し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行い、利用者、家族の意向確認を行っています。また、重度化に応じて、繰り返し話し合うことにより段階的な合意の必要性も認識し支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対する対応については、会議などで応急手当や対応方法についての実践・評価を行ない、勉強会を開いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署との連絡の下で、火災訓練を実施。職員の意識づけを定期的に行っている。地域住民との連携についても運営推進会議等の議題として検討している。スプリンクラーの設置も行なっている。	消防署立会いのもとで、火災避難訓練を年2回実施しています。地元消防団との協力体制も図られ、消防団と共に施設設備点検や通報避難訓練を行っています。	地域の方に実際の協力依頼と訓練の参加を運営推進会議で検討すると共に、自然災害についても机上訓練やシュミレーション等で意識付けされる事と備蓄の検討を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助や入浴介助等プライバシーに配慮した声かけや対応を心掛けている。一人一人の人格を尊重し、無理強いせず、言葉かけや対応については常に注意を払っている。	言葉遣いや言葉掛けは、利用者の尊厳重視に努め、職員の意識向上や具体的な対応方法について、研修会等で話し合っています。年長者への尊敬を忘れないよう、さらなるケアの質の向上に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入所者の担当を決め、思いや希望を表明しやすい関係づくりを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないようにこころがけ、利用者のペースでの生活を優先できるような関わり重視のケアをユニット全体で展開するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、寝間着と普段着と外出着を着替えその方の個性が感じられるような工夫を心掛けるようにしている。理美容も定期的に演出して利用者の方のおしゃれにつなげるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特に、食事をご自分ですることを意識して介助の方法を工夫している。またその方の健康状態に配慮して臨機応変な対応が出来るケアを念頭においている。嗜好品はできるだけ食せるようにご家族と協力的に対応している。	食事は季節の食材を使い、職員が交代で手作りをし、献立も職員が作成しています。利用者の健康状態や嗜好に配慮し柔軟な対応も行っています。利用者の力量により片付けを一緒に行ったり、おやつ作りに参加してもらっています。	職員は食事介助でテーブルに付いていますが、見守り、声掛けをしながら和やかな食事風景も必要と思われま。テーブルで全職員と一緒に食事(同じもの)をとり楽しく会話する事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取量のチェック・水分摂取量のチェックを欠かさず実施している。摂取量の低下がみられる場合は看護師とも協力しつつ様々な方法で補食が出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方には声かけ、誘導にて口腔衛生の維持に努めていたたいている。全面的な介助が必要な方には毎食後誘導して口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に、排泄チェックを行ない(個別の記録表に記載)、介助時間や排泄量を確認し誘導につなげている。なるべくおむつ着用を減らしていけるように職員全員が努力している。	トイレでの排泄やおむつをしないですむ暮らしを基本に支援をしています。個々の排泄パターンを把握し個別対応を行うと共に、トイレ、風呂の言葉を拒否する利用者には排尿は「水」排便は「花」と表現を変え、プライバシーの配慮をする誘導を工夫し支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師による排便チェックとコントロールを実施している。自然排便が困難な方には、定期的に浣腸等の処置でコントロールできるようにしている。食物繊維の多い食材の利用やメニューの工夫にもつなげようとしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日に入浴計画を立てて実施しているが、ご本人のその日の状態に応じて無理強いせず誘導をこころがけ、変更も柔軟に対応している。1対1のゆったりとした入浴心がけている。	入浴は基本的には午前中となっていますが、生活習慣やその日の体調、希望を大切に、午後入浴や清拭等、柔軟な対応を行っています。入浴時はゆったりと会話をしながら「楽しむ入浴」を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠については、物音や光に配慮しながら安否確認を行なっている。その時々状況に応じて休息はホーム内でのこの空間においても可能で、見守りながら本人の意向に沿うように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤添付文書(薬剤説明書)をファイルして、いつでも確認できる場所において、臨時薬や変更処方については連絡ノートを活用して全職員が確認できるように申し送りを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の「やりたいこと」を日々の生活や生活歴を通じて探し出し、できるだけホームの中の作業に結びつけつつお手伝いができるようにしている。職員が常にフォローして達成感を味わえるよう心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に沿った外出支援が出来るように適宜対応できるような職員の意識づけを行なっている。時には状況を家族に説明し理解をとりつつ支援することもある。	年2、3回季節感を味わうため「花見」や「紅葉狩り」等を計画しています。重度の利用者も「外出困難」と決めつけずに、散歩やテラスでの日光浴等、気分転換を図っています。また、家族の支援により利用者の思い出の場所に出かける事もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の状態に応じて、金銭にこだわりのあるご利用者には金銭の所持を行なえるようにしている。ご家族とのやりとりの中で金銭管理の様子を意見交換しつつ様子を見守るようにしている。多くの方は事務所管理でお小遣いを用意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族とのコミュニケーションを図る希望があれば電話の取り次ぎを通じて話していたり、手紙もご利用者とコミュニケーションを図りながら一緒に呼んだり読みやすい大きさに変換して渡したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度採光は常に気を配り管理している。観葉植物、生け花、水槽等を配置して落ち着いた空間を演出している。季節の行事に合わせて飾り付けを行ない季節感の演出にも配慮している。	共用空間は開放的な作りとなっており、対面キッチンで食事作りの間も、料理の音、匂いと共に家庭的な雰囲気です。異臭や騒音も無く、長い廊下は歩行訓練の場として利用されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファやイス、畳の座敷等を各場所に配置。好きな時間に好きな場所でくつろげる空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とも協力しながら、慣れ親しんだ品物や備品を配置し、落ち着いた居心地の良い空間づくりを目指している。また、その方の状態に合わせて安全を確保できる寝台等の配置を工夫している。	重要事項説明書の中にも馴染みの物の必要性を説明しており、仏壇、テーブル、イス等、家族の協力により持ち込まれ、壁には手作りのカレンダーや家族写真が飾られています。各居室にはトイレが完備され居心地良く過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すりの設置という環境の下、個別の意向に沿った転倒などのない空間づくりに配慮している。		